

# 教会月報

No.541 (2024年1月28日)

【2024年2月号】

日本キリスト教団埼玉和光教会  
〒351-0114 和光市本町 15-50

主はあなたの道を守られる

岩河敏宏

聖書：詩編 91 編 11 節

11 主はあなたのために、御使いに命じて  
あなたの道のどこにおいても守らせてくださる。

この詩編は、『いと高き神のもとに身を寄せて隠れ(る人) 全能の神の陰に宿る人よ、主に申し上げよ「わたしの避けどころ、砦 わたしの神、依り頼む方」と。』(1節～2節)という始まりで、神と著者の関わりが最初に示されています。つまり、「身を寄せて隠れる人」と「全能の神の陰に宿る人」とは同じ意味です。このように二つを重ねることで、神と密度の濃い交わりを表わしていると考えます。親密な関係を前提に、「主に申し上げよ(主に向かって言え)」(2節冒頭)という積極的な態度が記されています。

私たちの人生には、実に様々な出来事があります。自分の予定や準備の中で起こる出来事もありますが、想定外で何の準備もなく遭遇する出来事もそれ以上にある、というのが私の実感です。それは良い事や嬉しい事ばかりではなく、避けたい事や隠れたい事もあります。それが後者の場合であれば、大きな

ストレスを感じ身心のバランス(調和)を崩すことにも繋がります。人生という道における現代社会が持つ漠然とした評価は、齢を重ねる道程で自分ができることを増し、ある時機を迎えると自立して一人前、というものでしょう。この虚像に対する意識が強すぎると、隠れ場や避け所が“ある”と頭では理解していても、それを信頼して身を委ねることに躊躇を覚えることが多いと感じます。真に神のもとに身を寄せ、神の陰に宿るほどに神への信頼があるのなら、「主に向かって言え」と促しています。神に依り頼む者の言葉に対して、神がとる態度が冒頭に紹介した神の言葉です。

「あなたの道のどこにおいても」という表現からは、私たちの人生のあらゆる場面(悲喜交々)を神が見(視る・見る)続けていることが知れます。次の“守る”の語は、旧約聖書創世記2章15節と3章24節に初めて使われている語で、あらゆる命が調和する「エデンの園」を“守る”という用例です。そのことを考えると、私たちが人生において障害物と認識する事柄を“排除する”のではなく、和解・調和へと導くことを御使いに命じている、と覺えたい。